

■ ■ ■ 編 集 後 記 ■ ■ ■

科学技術が、仁義なきマネーゲームや嘘つきの泥試合の道具に利用され、連日テレビの画面を汚す中、ちょっとチャンネルを切り替えると、世界遺産知床の環境番組に。今号の表紙のように、オジロワシが悠然と飛んでいるのを見ていると、一緒に見ていた小4の愚息に「お父さん、地球は滅亡しちゃうの？」と聞かれました。いきなりそんな豪速球投げられても困っちゃうんですが、温暖化を始めとする地球環境問題や、エネルギー問題に関する身近な題材の番組が流れる機会は確かに増えましたね。

振り返って自分が小4の頃は公害が社会問題となり、ストレートな正義感を伴って「公害=社会悪」というキーワードを覚えたものでした。

いまや公害は管理され、川や海、空気もずいぶん綺麗になったなあ実感します。しかし一方では、海浜がなくなるとか、すごい災害や病気がやって来るとか、ゴミを捨てられないとか、安心して食べられないとかで、人々の奮闘は果てしなく、決して止むことがないのでしょう。「地球は滅亡しちゃうの？」という問いに、我々技術者は明るく笑って話せる答えを用意したいものです。

後世に残していくべきもの。環境であり、資源であり、技術であり、文化であり、安心・安全なのでしょう。今回の特集2編をはじめ108号の記事は、そんな示唆に富む内容であったと感じ、「人々の奮闘」というスパイラルの中で、まだしばらくは泳いで(溺れて?)いたい自分がある。技術士になって10年。雪まつりのアンコールワットを眺めながら、ちょっと大袈裟に思い耽った次第です。

(第108号 編集担当 金 秀俊)